

# 『安全で快適な住まい方』への 「関心・意欲・態度」を育てる授業の提案

観点別学習状況の観点「生活や技術への関心・意欲・態度」は、長時間にわたって少しずつ授業で育てる学力であり、一時的・瞬時に表出した忘れ物や私語の有無、授業態度、挙手や発言の回数ではない。

『安全で快適な住まい方』への「関心・意欲・態度」を育てる授業づくりをねらいとして、地域の消防署による起震車体験を題材の導入に行ってみた。その題材の指導計画及び授業の提案・実践報告をする。

## 1. はじめに

平成24年度に全面実施の新学習指導要領では、住生活に関する内容が以前と比べて大きく精選されている。快適な室内環境の整え方については小学校で学習し、中学校では、安全に重点を置いた室内環境の整え方について取り扱うことと明記されている。自然災害や室内事故などについて調査や観察・実験などの学習活動を通して具体的な工夫ができるよう指導するものとしている。

本実践では、2学年を対象にした題材『安全で快適な住まい方をプロデュース』の中から、「関心・意欲・態度」を育てる導入授業として実施した起震車体験の内容を中心に報告する。

## 2. 「4観点」をバランスよく育てるための指導計画

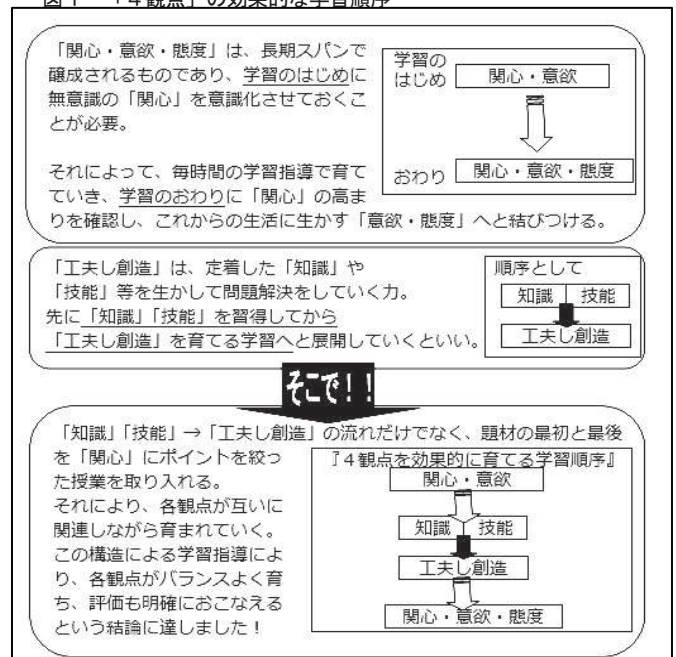
観点別学習状況の4つの観点（以下「4観点」）に示されている学力にはそれぞれ特性がある。その学習特性に合わせて効果的に学習順序を配列することで、「4観点」がバランスよく育つと考えられる（表1、図1参照）。

本実践の題材においても、最初と最後に「関心・意欲・態度」にポイントを絞った授業を行い、『安全な住まい方』への関心が醸成されるようにした。また、「知識・理解」「技能」を習得してから問題解決的な学習に取り組むようにし、「工夫し創造する能力」を効果的に育てることができるよう指導計画を工夫している。

表1 「4観点」の学習特性

観点別学習状況 「4観点」	学習特性
*生活や技術への関心・意欲・態度 「関心・意欲・態度」	「学習内容・テーマ」に対しての関心ととらえる。 →情意を揺さぶることで醸成されていく。 ★「関心がある・ない」を判断するものではなく、学習を通して育てていく学力。
*生活を工夫し創造する能力 「工夫し創造」	問題を解決するために、学んだ知識や技能等を活用し、条件などをふまえて思考・判断し、自分で最適解を考え出す能力。 →習得した力を生かし問題を解決するという“活用する能力”ととらえる。
*生活の技能 「技能」 *生活や技術についての知識・理解 「知識・理解」	学習指導要領に書いてある内容を身に付けさせる。 →確実な習得を目指す。 →学習指導要領をきちんと読み、もれのないよう確認が必要。その一方で、必要なものを精選することも大事。

図1 「4観点」の効果的な学習順序



### 3. 住生活に関する指導計画の全体像

今回、住生活に関する学習については、1, 2 学年にわたって履修できるよう指導計画を立ててみた。1 学年では住居の機能や小学校で学習していることを踏まえ、快適な住まい方に関心をもてるよう授業を展開している。2 学年では、1 学年での学習を踏まえ、安全な住まい方にも視野を広げていけるよう、問題発見からの課題解決学習を取り入れている（図2参照）。

### 4. 「関心・意欲」を育てる授業実践

2 学年の学習「安全で快適な住まい方をプロデュース」の導入として、地域の消防署の協力を頂き起震車体験を実践してみた。安全な住まい方への関心・意欲を喚起させ、その後の授業へとつなげていくことをねらいとしている。

図2「安全で快適な住まい方をプロデュース」（指導計画10時間扱い）

#### ①住まいが安全でなくなる時を体験してみよう

\* 起こりうる天災

#### ②住まいが危険になる時を想像して

\* その他の天災と室内事故

#### ③安全で快適に暮らす方法を見付けよう

\* 教室内の危険調査

\* 演習 室内の安全対策リサーチ（情報収集→整理→発表）

#### ④安全で快適な住まい方の工夫を考えてみよう

\* ユニバーサルデザインと現代の住宅事情

\* 学習のおわりに

起震車体験  
事前指導・体験グループ分け  
(1/10時間目)  
体験 (2/10時間目)

#### (1) 起震車体験授業の概要

地域の消防署にお願いをして県内にある起震車（地震体験車）を予約していただいた。当日は、消防署の方（2名）に起震車の操作と体験後に地震にあった時の対応の方法などのお話をしていただいた。

1 クラス 1 時間で全員に体験をさせるよう授業の計画を立て、前時に事前指導とグループ分けを行った（図3参照）。

図3 起震車体験授業の流れ

: 授業の流れ: 3コマ目 (3時間目 10:55~11:45) 2年1組	
10:55	・体育館わき(外)に集合 出席確認 ①あいさつ ②授業の説明(北村) ③諸注意 ※起震車乗車時の注意事項を説明していただく。(消防署の方)
11:05	・体験開始(約2分×10グループ予定) 関東の兵庫①中越② ※事前に分けておいたグループごとに体験させてもらう ※体験の感想や体験している様子を見て気がついた事などを記録しておく
11:25	・体験終了 全体集合 ・消防署の方にお話をいただく ①地震にあった時にどう行動をとればよいのか ②地震が起きた時、室内で危険となる場所と被害を防ぐ方法 など ・消防署の方へお礼のあいさつ
11:40	・授業のまとめ 先生の話 振り返り用紙記入・提出
11:45	・授業終了



(起震車体験の様子)

#### (2) 起震車体験の成果

授業後の生徒の感想によると、体験して初めて自然災害の恐ろしさが実感でき理解できたようだった。揺れ方の違いや室内の状況によつての危険度が変わることに気づいた生徒が多く、室内を安全に整えることの重要性を感じたようだ。

この体験授業の次時以降の授業では、自分の生活している教室の危険個所を発見し、問題解決学習へと発展している。危機感をもって教室内の危険個所を点検する生徒たちの姿を見て、やはり起震車でのリアルな体験が『安全な住まい方』に対する関心を高める大きな窓口となっていると感じている。

#### 参考文献・参考Webページなど

・中村祐治 堀内かおる 岡本由希子 尾崎誠 編著『これならできる 授業が変わる 評価の実際』開隆堂出版